



発行：救いの光教団  
編集：神成編集室  
東京都世田谷区北沢  
(☎155-0031) 2-22-10  
電話 代表 03(3413)0123  
http://sukui.jp  
毎月1回1日発行  
購読料 1部80円  
(会員の購読料は会費に含む)

2022  
No.597  
5月号

◎教団創立五十周年教団方針

明主様の御元に  
半世紀経過  
継承 進歩向上

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

# 明主様信仰を広める

## 『文明の創造』を 学び伝える

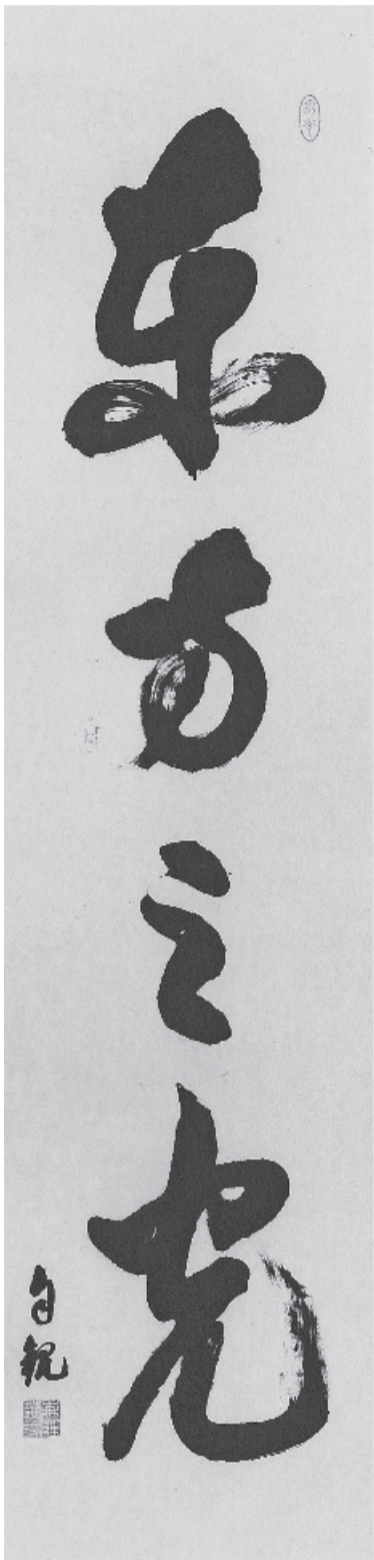
### 二十一世紀のバイブル

この『文明の創造』は歴史がはじま  
つて以来、未だかつてない大著述であ

り、一言でいえば新文明世界の設計書  
ともいうべきもので、天国の福音でも  
あり、二十一世紀のバイブルでもある。  
聖書にある世の終りとは、この仮想  
文明世界の終りを言ったものである。  
また今一つの「普く天国の福音を宣べ  
伝えらるべし。然るのち末期到る」と

の預言も、この著の頒布である事はい  
うまでもない。そしてバイブルはキリ  
ストの教えを綴ったものであるが、こ  
の著はキリストが繰り返し言われたと  
ころの、彼の天の父であるエホバ直接  
の啓示でもある。またキリストはこう  
も言われた。『天国は近づけり、汝等  
悔い改めよ』と。これによってみれば、  
キリスト自身が天国を造るのではな  
い。後世誰かが造るといふ訳である。  
それは目下私によって天国樹立の基礎  
準備に取り掛か

にあるのであって、私はそれに対し実  
際を裏付けとした理論を、徹底的にこ  
の著をもつて説くのである。先ず知ら  
ねばならない肝腎な事は、旧文明は悪  
の力が支配的であつて、善の力は甚だ  
微弱であつた事である。ところがいよ  
いよ時期来たつて今度は逆となり、こ  
こに世界は地上天国実現の段階に入る  
のである。しかしこれに就いては重大  
問題がある。というのは、旧文明は当  
然清算されなければならないが、何し  
る世界は長い間の悪の堆積による罪穢  
の解消こそ問題で、これが世界的大浄  
化作用である。従つてこれによる犠牲  
者の数はいかに大量に上るかは、到底  
想像もつかない程であろう。神の大愛  
は一人でも多くの人間を救わんとし  
て私という者を選び給い、その大業を  
行わせられるのであつて、その序曲と  
いうべきものが本著であるから、この  
事を充分肝に銘じて読みたいので  
ある。



## 東方之光

(とうほうのひかり)

引首印 明 光  
落款 自 観  
落款印 森羅万象  
揮毫年 昭和十年

準備に取り掛か  
つている。これ  
を仔細に検討し  
てみる時、神は  
何万年前から  
細大漏らすとこ  
ろなく、慎重  
綿密なる準備を  
されていた事  
である。その根  
本は旧文明の清算  
と新文明の構想

『文明の創造』(序文より)

光守の思い

私の悟り

先日かかりつけの内科医から、三回目のワクチンについて「この日はどうですか?」と言われたので、すぐに「よろしく」と応答をした。

その日が来た。ワクチンを打ち終わって主治医が、「大沼さんは年齢が高いから、このあと熱が出たりはしないでしょう、安心してください」。九十歳になるといろいろ言われるが気にしない。

ところが今まで何年も経ているが、どういうわけか熱を出した記憶がない。翌日になって何か怠いというのか気力が出ない。しかしそれも一日で済んだ。体温を計ったら八度三分、めずらしく熱が出ていたが、クリニックには連絡せず翌月の予約時に熱が出たことを報告したところ、「大沼さんは若いからだね、驚いた」という返答。

考えてみますと、人間誰もが公平に、人生で一度は考えねばならない「死の時」を持つという事は、神からの大きな贈り物なのではないか。著者な作家、曾野綾子さんは、その著書の中で、「最近私は時々、私は死ななければならぬ。私には死ぬという任務がある、と思うようになった。地球上では老いと古びたものが、新しい命に席を譲る。それが自然なのである。死はだから無為ではない」と、本の表紙に書かれている。

著書には他にも、

「この世で死ということ信じることが喜びです。余命の告知は患者へのよい手助け」

「積極的に死を迎える計画はできる」

「運命は承認しないと死は辛い」

「まだ当分生きるは、無限に生きると思っていることと同じ」

「解決であり救いであるという死の機能」

「畑仕事をすれば間引きの大切さがわかる」

「誰でも死ぬことで、後の世代に役立つ」

「最後に残るのは、財産でもなく、名声でもなく、愛だけだ。だから愛されたことも、愛したこともない人の死は、本当に気の毒だということになる」

「ある日ほんの一瞬、魂に突き刺さるような〇〇さんの言葉というものを捕らえることが、どの職業を通して必ず影響を誰かに与えて、この世を去ることができる。要はその目標を自ら発見するのだ」

「まだまだいろいろと書いていますが、この死という問題はいかがだったでしょうか?」

では次に、シンガポールで、あるアンケートが出されました。

「余命六カ月となったら、あなたは何をしますか?」

これに対しての結果です。やや中国系の人の多い、シンガポールの特徴を見せたいと思いますが、私達の参考になるのではないかと思ひ記します。

①愛する人と共にいる

②旅に出る

③精一杯生きる

④楽しむ

⑤仕事を辞める

⑥思うさま飲み、食べ、人と遊ぶ

⑦今まで通りに暮らす

⑧精神的な生活にふける

⑨家にいる

⑩思いっきり金を使う。社会に還元したり、チャリティに献金したり、ボランティアなどをする

：というのが答えでした。

「余命六カ月となったら、あなたは何をしますか?」の問いに、答えが十種類ありました

こと、人間として尊いことだと思ひます。

曾野綾子先生が、「この世で信じていいのは死だけなのだ」と語っていることに、私はますます「死」の尊さを感じます。つまり、この世は死の前に与えられた貴重な時間なのだ。今までにない重い意味を持っていることに、不思議さを覚えます。

曾野綾子氏：作家・カトリック教徒  
「遠来の客たち」が芥川賞候補となり、二十三歳で文壇デビュー。小説・エッセイ・翻訳など、多数の作品と受賞歴がある。他に日本財団会長、日本郵政社外取締役などを歴任。多方面で活躍。  
聖心女子大学文学部英文科卒業  
上皇后美智子妃殿下と御昵懇。  
昭和六年生まれ 九十歳

春季大祭・春のみたままつり『おことば』

命の根

今日は「命の根」について申し上げたいと思ひます。

昨年「神成」八月号の「光守の思い」にも載せたものが、宗教詩人の相田みつを先生の「道」を今一度ご紹介します。

「道」

長い人生にはなあ

どんなに避けよう

としても

どうしても通らな

ければならぬ道っ

てものがあるん ダメだぜ!  
だな そしてなあ その

そんなときはその 時なんだよ

道を黙って歩くこ 人間としての

とだな いのちの根がふか

愚痴や弱音を吐か くなるのは…

ないでな

黙って歩くんだよ 相田みつを著

黙って 「ある日自分へ」

涙なんか見せちゃ (文化出版局)より



『おことば』を述べられる光守様

この「いのちの根がふかくなるのは」とは、いったいどういうことかな?ということを基準に、お話をさせていただきます。明主様は、『人生こうあるべきだ』と、あらゆる『神言霊』で諭されておられます。簡単に申しますと次の三つではと、私は考えます。謙虚: 神様、周囲の人々、自然に対して、常に謙虚であること。

感謝: 神様、周囲の人や物に、感謝の気持ちを持つこと。利他: 周囲の人々や物を喜ばせ、幸せにすること。この三つが実行できれば、「命の根」が深くなるのではないかと思います。神様にも喜んで頂くことができそうです。人間関係もスムーズにいき、世の中に犯罪も起こらず、

大嫌いな戦争も勃発しないでしょう。これは神様が造られた最高傑作と申し上げる、私達の人体の構造や機能を考えれば、納得がいきますね。腕は腕のためにあるのではなく、物を取ったり、箸を持つたり、機械を動かしたり等々、体全体が動物としての機能を果たすためにございます。胃腸は胃腸のために存在するのではなく、食物を消化して、体全体に栄養を行き渡らせるために存在しています。白血球は白血球のために生きていて、外から入ってくる病原菌やアレルギー(注1)、体内でできる老廃物やがん細胞を貪食(注2)して、体全体の維持に役立っているわけです。脳は脳のためにあるのではなく、体内のあらゆる臓器の機能をコントロールし、生きていくための情

報の収集や解析を行っています。このような体内のあらゆる臓器、器官、細胞は、自分自身のために、体全体のためにその役目を遂行するように、「神」によって造られた細胞や臓器などによって造られた人間も、他人のため、社会のため、国家のため、世界のために働いてこそ、神の御意思に沿うものであると、考えられるのでございます。つまり、「利己」ではなく「利他」の生き方をすべきである、そういうことであると、私は思います。

「利他」の精神

少し「利他」の精神について申し上げましょう。私達人間は誰しも、金銭欲、出世欲、名誉欲を持っているものでございます。しかし離れ小島に一人暮らし暮らさなくてはならなくなった場合、こうした欲はなんの意欲もなくなくなるそうです。なぜなら、私達は一人です。私達一人では生きていけないので、お互いに支え合っているからなのでございます。自分を満足させるより、まず他人や周囲の人々を喜ばせることの方が大切なのです。



祖霊殿の御膳、右下は長岡の信徒さんから届いた手作りの「牡丹餅」



水子様の御膳手前には、たくさんのお供物がそなえられた

この他人を「思いやる」ことこそ、人生の基本と言えるのでは

(注2) 貪食  
むさぼり食べることで。ガツガツ食べる

ないでしようか。その「思いやり」を表現するには、「言葉」が大切でございます。 「言葉」は「言霊」と言われるように、その人の魂の表れではないでしようか。明るく、美しく、思いやりのある言葉を使いますと、相手からも同様の言葉が返ってきますね。思いやりの言葉によってなされる行動や、動作も美しくなり、お互いにより良い関係が生まれるものがございます。逆に喧嘩の時は、「売り言葉に買い言葉」のように、お互いに悪い言葉で罵り合い、事態が悪化していきます。

言葉は使

い方により、相手を喜ばせもするし、怒らせもするわけでございます。言葉には

「いのちの根」、それぞれの持っている「いのちの根」を深くしていただきたいと、このように思う次第です。本日、無事に御参拝できました事に感謝申し上げます。有り難うございました。

さして今日は、御神前のお花も慰霊に相応しく活けてあり、またお供え物もたくさんあがっていて、御先祖様方もお喜びのことと思っております。このように毎月深く懇ろに、御先祖様の御供養をさせて頂ける私達は幸せでございますね。

「いのちの根」、それぞれの持っている「いのちの根」を深くしていただきたいと、このように思う次第です。本日、無事に御参拝できました事に感謝申し上げます。有り難うございました。



光守様より相応しいと賞賛された生け花



若干人数を増やしての御参拝が行われた東京本部

# 『おことば』

## 令和四年『神成』四月号 『一の世界』について(前編)

霊界の認識と現界との関係について、申し上げたいと思います。

私達は、私達の五官(※注1)によってつかませて頂くことのできる現界、物質界のほかに、そのもう一つ奥に霊界という、私達の五官で触れることのできない、つまり目で見たり、耳で聞いたり、手で触れたり、そういう五官によって触れることのできない霊界という世界があるというこ

とを、明主様から御教示頂いております。しかも、その霊界という世界が、元の世界であって、現界でのいろいろな現象は、その霊界のいろいろなることが反映されてくるわけでございます。従いまして、現界で

のいろいろな問題を根本から解決するためには、霊界のことを正しく知り、その霊界での問題を解決しなければいけないということ論されておられます。



この現界、私達が五官で触れさせて頂ける世界と同時に、その奥にありますが、私達人一人一人がしっかりとつかませて頂き、さらに、神様が霊界と現界を支配しておられるということをしつかり一人一人の人間が分かって頂いた時に、神様の御目的であり、まず理想世界が、はじめて創造されたことになると仰せてございます。

その霊界のこと、また、どうすれば私達が霊界をつかませて頂けるのかということをお話し頂きました。『一の世界』という神言霊でございます。ここでは、私達が住んでいますこの宇宙、神様が創造されたこの宇宙の一番根幹をなしているのが、太陽、月、地球の日月地であるということ、をまず仰せて。深いこ

とは、私自身まだつかませて頂けておりませんが、ここで太陽とか月とか、地球と、明主様が仰つておられますのは、つまり、私達が知っている天体の太陽、月、地球そのものというよりも、もっと霊的と申しますか、この宇宙の一番根幹になる基と申しますか、日月地というふうになつて、そういう三つの原素があるというふうにとらえさせて頂いたほうがいいのではないかと、思うのでございます。

明主様は、その原素として、ここでは火水土(みろく)の精と、また別のところでは火素、水素、土素というように仰つておられます。私、勉強不足ですみませんが、一番根本の火素、水素、土素、という基本的な粒子がこの宇宙のすべての根源にあるのでございましょう。そして、それがいろいろ組み合わさりまして、霊界、あるいは、空気が、現象界という世界を、それぞれ造つていくわけなのだと思

この霊界と現象界は、重なり合つてちようど紙の裏表のようなもので、私達はその一方から、現象界という、物質界だけを見ていくわけですから、でも、実際はその奥に霊界というものがあるので、はないかと思つたのです。その霊界は、私達人間の五官、つまり、目で見たり、手で触れたり、耳で聴いたり、臭いを嗅ぐというふうな、五官ではなかなか触れられないわけでございます。

この宇宙にあるんですね。しかも、この現界とは違つたどこか別にあるのではなくて、この現界に重なり合つていようです。その目に見えない霊界という世界が、この現界の基になつてい

努力したわけですね。けれども、実際はそのもう一つ奥にある霊界の原因を解決しなければ、目に見える世界の問題を根本的に解決することはできないわけでございます。(後編に続く)

(※注1) 五官：目・耳・鼻・舌・皮膚を通じて外界の物事を感じる視・聴・嗅・味・触の五つの感覚